

## 第 72 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 30 年 8 月 28 日(火) 午前 10 : 30~12 : 00
2. 開催場所 COM倶楽部会議室 (箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階)
3. 委員の出席 委員総数 6 名
- 出席委員 5 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、須貝昭子、桑田政美  
高谷和彦、神垣美代香
- 欠席委員の氏名 中川弘佳
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)  
大平麻由美 (編成課長)  
野間 耕平 (編成課員)  
小川 亮 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 「6 月 18 日の大阪北部地震緊急放送から」  
2) 審議  
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

## 6. 審議内容

### 1) 番組

#### (1) 事務局より番組説明

6月18日に発生した大阪北部地震により、当日、タッキー816では全ての番組を中止し、緊急放送を行いました。7時58分の緊急地震速報から、発生直後にスタートした「モーニングタッキー」の2時間の中から約30分を抜粋しています。スタジオからのアナウンスに加え、箕面市災害対策本部から、タッキー816の電波に割り込む「緊急割り込み放送」のシステムを活用して情報を届けたほか、街かどレポーターや、パーソナリティと電話を結んで、地震発生時の状況を伝えました。

(背景など)地震発生時、スタジオには、パーソナリティ1人が8時から始まる番組の準備をしていました。地震発生後、8時から5分間は箕面市提供の情報番組を放送し、8時5分から、地震が発生したことをアナウンスしました。その際、スタジオのビル自体が停電しており、放送機器はUPSにより中断することなく放送できましたが、電話、テレビ、パソコンは不通。8時10分頃までに、社員が2名到着しましたが、他の社員と連絡が取れず、入社時に見た光景と、iPadで得た情報を繰り返し放送しました。

地震から20分経過頃によりやく停電が解除され、パソコンでライフラインや交通などの情報収集に当たり随時放送、45分経過頃に災害対策本部へ社員が到着し、災対内の情報を取捨選択し、55分経過頃によりやく災害対策本部から割り込み装置を使い、箕面市の詳しい情報が放送できました。

この後、東部地域での断水や、給水、にごり水、翌日の学校情報、スーパー開店情報、一部エリアで避難勧告などが発生し、これらを随時放送し、緊急放送は、6月21日夕方まで24時間体制で続行しました。また、災害対策本部へは6月22日まで社員が常駐しました。

また、7月5日～7日にも豪雨で、7月28日～29日にも台風第12号で、24時

間体制の緊急放送を実施しました。

放送と並行してホームページにも緊急情報をあげており、緊急時には、局のホームページのトップに「緊急災害情報」というバナーを出しています。

災害対策本部が設置されると、現在は、私たち職員が本部に入って、そこから放送や情報収集をしています。開局当初は本部に入ることはできませんでしたが、現在は、本部に入って自分たちで情報収集することができるようになりました。

当時と比べると、行政のホームページも充実し、緊急情報が随時発信されるようになりました。そういった中で、社の緊急情報の発信も、次の段階に進まないといけないという課題もあります。

## (2) 審 議

委員長：地震や台風続きで、こういった放送は本当に必要になっているとつくづく思います。

委員A：やはり箕面のローカルな情報が、住民の声としてあがってくるというのが聴き入ってしまった。情報の良さが生きると感じた。気になったのは、パーソナリティが落ち着いてしゃべろうと臨んでいたからかあまり緊迫感が感じられず、災害情報をアナウンスしているように聴こえなかった。逆に災害対策本部からの放送は、緊迫感があり、まさに災害が起きている現場なんだと臨場感をもって聴けた。BGMも、落ち着いてもらうために選んだのかもしれないが、静かな音楽で逆効果だった。個人差はあると思うが、どこに焦点をあてるのかは色々意見があると思う。

委員B：私も音楽のことは気になった。情報のあとにハードな曲が流れたときは聴いていられなかったという人も身近にいた。電話出演したパーソナリティの「お風呂に水をためておく」話はためになった。牧落の踏切がおりたままだというような情報はやはりテレビでは流れない、ローカルならではの情報で、やはりタッキーは必要だなと感じた。

委員C：番組が始まる前に地震があったわけで、普通どおり番組を始めるのはどうかと思った。途中から緊急放送的になってきたので良かったが、対策本部

からの音声はなぜあんなにはおるのか。

事務局：電話の受話器に向かってしゃべるのだが、恐らくオートゲインコントロールが効いていて、音声がないと自動的にレベルが上がるため、言葉と言葉の合間で途切れたときにそれがあがってはおってしまうのではないかと。

委員C：それが分かっているのなら、もう少し聴きやすい方法はないのかと思う。放送の内容の細かさは良かった。信号機の停電、注意しなければならないこと、水、電話、階段に至るまで事細かに注意事項をアナウンスしていて、動揺している中でたいへんチェックポイントになるなどと思った。最終的には、学校の休業、親御さん迎えに来てくださいまで気を配った情報だった。SNS の情報の早さや量も良かった。いざとなれば放送だけでなくホームページにもものっているというのも良かった。これだけのことをやってもいったいどれだけの人が聴いているか。周知できれば…。聴いている人には十分な情報で良かったと思う。

委員D：地震食後すぐタッキーをつけても、音楽が流れていた。NHK はすぐ情報が流れていたのに。NHK は繰り返しやっていて、タッキーは音楽も流れていて、そのギャップ。災害対策本部から入ってきた情報はコミュニティらしい、学校の休校だとか、リアルタイムに入ってきている。逆に、はおっている方が緊迫感があって良かった。音楽なしで、聴いているほうが求めていること、余震の注意、いまずべきこと、水の準備、火元の確認、近所のようななどはきちっと流してもらいたかった。気になったのは地震全体の情報が全くなかったこと。NHK は、茨木、高槻、震度、など放送していたが、こういうとき他の大阪のコミュニティとつなぐ方法、他の地域はどうなっているのか、災害が起こった直後に瞬時につなぐことができる方法を、コミュニティ協議会で議論してほしい。通勤途中の人や、これから出かける人、知り合いが住んでいることもあるし。箕面だけの情報もいいが、もう少し広げてやったほうがいい。

委員長：休校情報は親御さんに役立ったし、踏切情報は迂回に役立った。スーパーの開店情報など生活に密着していた。地域のきめ細かい情報はとても大切。行政に、地域限定の見えるラジオを作ってほしいと提言している。

委員D：スーパーの開店などの生活情報は、入ってくる手立てがあるのか。

事務局：こちらから問い合わせた。

委員D：そういうのをひっくるめて緊急放送マニュアルみたいなものはあるのか。  
具体的な放送の在り方とか情報とか。緊急時のアナウンスの訓練も必要では。

事務局：いままでの形のものしかなかったので、今回改めて作り直している。今回起きたことによって、放送および機材的なことの課題も見つかったので、改善するよう動いている。

委員A：ボランティアセンターの立ち上げ情報なども発信できたのか

事務局：もちろんできている

委員D：専用ラジオの購入補助を行政にかけあってもいいのでは。実際に西宮市や芦屋市はやっている。

委員長：見えるラジオがいい

事務局：V-Low マルチメディア放送というのがすでにある。弊社では、今回、緊急情報を見にホームページへアクセスした人数は、日頃 1000～2000 人のところ万単位にはねあがっている。放送と SNS で発信する手法が主流になっている。

委員B：局の情報紙は公共施設だけにしか設置できないのか。どこにあるのかよく聞かれる。

委員D：公共施設に置いているというが、図書館などで見たことがない。あるのかもしれないが目立たない。工夫が必要では。施設の館長さんなどに出演してもらって、目立つところにしっかり置いてもらえるように頼んではどう

か。

委員長：緊急時に、各パーソナリティと放送体制などのやりとりはできているのか。  
緊急時は緊急用のスタッフがいますのか。

事務局：その時間帯のパーソナリティが担当している。深夜早朝は社員で対応している。大雨や台風の際は、事前に体制を決められるので、協力可能なスタッフを呼びかけられる。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 30 年 8 月 28 日

箕面FMまちそだて株式会社      番組審議会